

みやこぼるこども縁（宮崎県都城市）

職員数：52名 在籍園児数：122名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

少人数制の料理ワークショップや子育てサークルを運営し、ゆったりとした雰囲気の中で子育て支援事業を行う。また、都城市と連携のもと赤ちゃん訪問を実施し、地域で孤立する子育て家庭の解消を目指す。

・お料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」・子育てサークル「あわあわっこ」の運営／園庭開放

（地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）

・一時預かり（幼稚園型／一般型）（一時預かり事業（施設型））

・赤ちゃん訪問（一時預かり事業（訪問型））

◆年間利用者数：一時預かり（施設型）：40名、赤ちゃん訪問：5名

（※コロナ禍の影響により、お料理ワークショップ・子育てサークルは休止中）

◆財源：自主財源の他、一時預かり事業・延長保育事業の補助金を活用

子育て支援事業の内容

●お料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」・子育てサークル「あわあわっこ」の運営

【概要】

日時	毎金曜日(10:00~12:00) ※コロナ禍の影響により現在休止中
場所	同園内「みんなのとしょかん」(保育室がある園舎とは別)
担当職員	主幹保育教諭1名(両取組担当) ※お料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」には栄養士1名・保育士または看護師1名が交代で応援に入る。子育てサークル「あわあわっこ」には、系列法人の学童保育職員1名が応援に入る。
対象者	都城市在住の未就園児・保護者
利用登録	お料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」:必要 子育てサークル「あわあわっこ」:登録なしで誰でも利用可
園や職員の役割	場所の貸出・取組内容の企画・実施

- 少人数制の料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」や子育てサークル「あわあわっこ」など地域の親子が交流する場を提供している（てげてげとは、宮崎の方言で「ほどほど」「おおざっぱ」といった意味）。
- 子育てサークル「あわあわっこ」では、親子で行うベビーヨガや、図画工作などの創作活動など、多様な行事を開催している。

【取り組む上での工夫】

家庭でも実践しやすいように、身近で手軽な料理を扱う

- お料理ワークショップ「てげてげ玉手箱」は、保護者にとって身近で手軽な料理を扱っている。例えば、子どものための手作りお菓子や、お漬物など家庭で保護者も作りやすいものを扱っている。
- 「てげてげ玉手箱」でのレシピは、同園の栄養士が作成している。また、自身の子育てが終わった保育教諭もレシピや調理指導に参加している。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

少人数でゆったりとした雰囲気の中での活動を心掛ける

- 子育て支援事業を行っている中、保護者の中には、大人数でにぎやかな行事よりも、少人数の方がリラックスして参加しやすい方が一定数いることに気が付いた。
- そこで、「てげてげ玉手箱」「あわあわっこ」では、規模を大きくすることはせず、少人数での交流の場を必要としている保護者を対象に、少人数でゆったりとした雰囲気の中での活動を心掛けている。
- そのため、あまり積極的な広報活動は行ってはいない。行事開催時は、園から地域の親子や「赤ちゃん訪問」で訪問した家庭への声掛け、さらに保護者同士の声掛けで利用者に知らせている。



「てげてげ玉手箱」での調理中の様子

●一時保育

【概要】

日時	幼稚園型:毎週月～金曜日(【早朝保育】7:15～9:00/【預かり保育】14:30～18:15) 毎週土曜日(午前/午後の2部制) 一般型 :毎週月～金曜日(9:00～17:00)
場所	幼稚園型:普通の教室 一般型 : (単発)園内の空き部屋使用 (長期)在園児の教室にて、在園児と一緒に保育を行う
担当職員	一時保育専任担当の保育教諭3名(3歳以下クラス担任1名が応援に入っている) ※長期の一時保育の際は、預かる在園児学級担任と一緒に保育を行う。
対象者	都城市在住の未就園児
定員	一般型:1日1～3名まで
保育料金	幼稚園型:1,000円(1ヶ月/1人) 一般型 :1,500円(1日/1人)
利用登録	一般型 :都城市一時預かり予約アプリ「cohana」を使用して登録・予約が必要
園や職員の役割	場所・保育の提供

- 保護者が、一時的に保育をできない時に園で子どもを預かる。急な就職や転居などで都城市の保育園を探している保護者や、里帰り出産で一時的に居住する親子の利用が多い。

【取り組む上での工夫】

ならし保育として一時保育を利用

- 同園では入園予定の子どもに対し、一週間の慣らし保育(昼食と午睡の時間帯のみ預かり、徐々に預かり時間を伸ばしていく)の期間を設けているが、育休明けすぐのフルタイム勤務などでならし保育に参加できない親子には、園側から事前に一時預かりを利用してのならし保育の実施を提案することもある。



一時保育中の様子

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

人手が不足する場合は、未就園児クラス担任の保育教諭がサポートする

- 都城市からの一時預かり事業費補助金により、専任の保育教諭を1名～3名配置している。ただし、預かり希望が多い時などは、対応するのは難しくお断りすることもあった。
- そこで、預かることも多いなどの場合は、未就園児クラス担任の保育教諭が兼任し、一時預かりの子どもへの面倒をみるような体制とした。
- また、長期の一時保育では、同年齢の在園児のクラスに一時保育の子どもも加え、在園児の学級担任と一時預かり専任の保育教諭と一緒に保育を行う。



園庭で水遊びをする子ども

●赤ちゃん訪問

【概要】

日時	不定期(随時)
担当職員	保育教諭1名・同園看護師1名
対象者	都城市在住の未就園児・保護者
園や職員の役割	家庭訪問、情報提供

- 都城市の行政・地域の民生委員と連絡を取り合い、地域で孤立し支援が必要な子育て家庭についての情報が入ると、保育教諭と看護師が自宅を訪問している。
- 訪問時には、育児の不安や子どもの発達、その他気になることを聞き取りし、保育教諭・看護師によるアドバイスや、同園や他子ども向け施設などの情報提供を行っている。

【取り組む上での工夫】

訪問する家庭の話を一丁度聞き出し、専門家への支援につなげる

- 訪問する保育教諭や看護師は、訪問した子育て家庭から、できる限り話を聞くようにしている。保育教諭や看護師が、直接、問題を解決するのではなく、ほかの支援施設や行政の窓口(児童相談所、療育施設等)を紹介、自園だけでなく他施設等への入所の手続き等の情報や子育て支援事業の利用を提案するなど、今後子育てをする上で役立つ情報やつながりを提供するようにしている。
- 訪問する保育教諭は勤務経験の豊富なベテラン教諭であり、また、看護師も育児経験のある者が担当している。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

事前に関係機関から話をしてもらい、子育て家庭からの信頼を得る

- 都城市は転居者が多い地域であり、周囲に実家や頼れる友人がおらず孤立する子育て家庭が多いことが課題となっていた。そこで、赤ちゃん訪問を、園でも行うことにした。
- 自宅に訪問するため、保護者が戸惑わないように、事前に行政や地域の民生委員からも話をしておいてもらうなど、子育て家庭が受け入れやすいように心掛けている。
- 一時期は、地域の社会福祉協議会やろうきん助成金等からを活用し、訪問時に子どもや保護者へ絵本などのプレゼントを贈っていた。認定こども園に移行後は、運営法人の地域貢献事業にて、プレゼントを贈っている。



赤ちゃん訪問を利用する親子

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- 少人数でゆったりとした雰囲気の中での子育て支援事業の実施を方針としており、園の子育て支援事業も、細く長く大事にして続けていきたい。
- 同園の運営法人では、学童保育、同園内の「みんなのとしょかん」（在園児や地域の子ども以外にも、幅広い世代が利用できる図書館）、「交流館」施設貸出、こども食堂などを実施しており、地域内で徐々に実施項目を広げていく方針である。
- 子育て支援事業についても、財源がもっとあれば、例えば講師を呼んだ講座やワークショップを開くなど、地域の子育て家庭に役立つ多様な活動ができるのではないかとと思われる。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 地域子育て支援拠点との連携はないが、地域の高齢者等の活動や、公民館などとの連携を行っている。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

同園運営法人の理念である「こどもをまんやかに 大人・地域・私たちが出逢い 認め合える縁を育てます」に沿って、子育て支援事業を実施しています。現代で子どもを育てる保護者の意見や困り感は、園の保育のヒントにもなると、アンテナを張って大事に聞き取るようにしています。子育て支援事業の各取組の担当は1年間変えず、利用される皆さんとゆっくり・じっくりと関わりを持った職員を配置し、保護者に信頼してもらえ関係づくりを目指しています。コロナ禍で子育て支援事業が実施できない期間が続いていますが、今後はオンライン等を活用した取組等を検討していきたいと考えています。